

今月の最新ニュース

「タイの建設業界」

タイ経済においてもパンデミックの影響がひと段落した事を示すように、ここ数か月で都心の大型案件の開発が相次いで再開しています。そこで今回のレポートはタイの建設業についてご報告します。タイではパンデミック前から交通インフラの整備やコンドミニアムの建設ラッシュなどが相次いでいますが、建設業のCAGR(年平均成長率)は2021年に2.7%を記録、2022年は実質2.6%、さらに2023年から2026年の予測期間中は3.9%と予想されています。そのほとんどにタイのゼネコン企業が関係しているため、今回のレポートではタイの建設業界やゼネコンの主要プレイヤーをご紹介します。

タイのゼネコン業界は基本的に日本と同じ構造となっています。発注元は国、自治体、民間ディベロッパー企業などであり、ゼネコン企業が大型プロジェクトを受注、実際の工事にあたり数次の協力会社によって複合的に組み立てられます。建設事業者には、建設業務そのもの以外にも、エンジニアリングや技術サービスの提供、機械や設備の据付、メンテナンス、補修修理業務などの事業者が含まれています。

大手ゼネコンはインフラ事業を一手に引き受けていますが、近年話題になっているものでは

- ・ 空港接続の高速鉄道建設<総工費 2,200 億バーツ (約 8,800 億円) >
- ・ EEC 政策の中核プロジェクトであるバンコク～ラヨン間の高速鉄道事業<総工費 1,000 億バーツ (約 4,000 億円) >
- ・ BTS、MRT の延伸・新設プロジェクト<総工費不明 最低でも 2026 年までの計画あり>

などがあります。

インフラ事業においてゼネコンは重要な役割を担っている一方で、様々な課題も存在します。前述の通りゼネコン企業が大型プロジェクトを手掛ける際には、数次の協力会社によって複合的に組み立てられますが、必然的に重層化の度合いが高くなります。重層化により、請負業者の管理行き届きを中心とした建設プロジェクトの遅延や、低賃金など劣悪な労働条件、仕事の質の低下が発生しています。

それらの状況の改善の為に、労働条件の改善や公正・透明な発注、契約などに向けた取り組みが必要とされています。さらに、建設現場での労働力不足が深刻な問題となっており、デジタル技術の活用による業務改善が急務となっています。

タイにおける主要なゼネコン企業は以下の通りです。

タイローカル企業

企業	設立年	業務内容
Italian-Thai Development PLC.	1958年	最大規模の建設会社であり、25,000人以上の社員を有し、60年以上の歴史で2,000件以上のプロジェクトを進めてきた。各プロジェクトはコンドミニウム、大型ショッピングモール、工場・発電施設、空港、高速道路、鉄道、橋、港湾施設など多様かつ大規模である。
Sino-Thai Engineering & Construction PCL.	1962年	インフラ、ビル、電力・エネルギー、産業、環境と、大きく分けて5つの事業分野を持つ。バンコク高架鉄道BTSの駅やエアポートレールリンク、チェンマイ空港などのプロジェクトを手掛けた。他にもMRTピンクライン、イエローラインの建設や、アユタヤ県バンパイン～東部コラートを繋ぐ高速道路モーターウェイの建設などを行っている。
CH.Karnchang PCL.	1972年	バンコク地下鉄のMRT(Mass Rapid Transit)やスワンナプーム空港の建設に携わった。また、タイ王室、政府との関わりが深く、タイ王室陸軍やタイ王室空軍のプロジェクトを手掛けた経験がある。

日系企業

企業	設立年	業務内容
Thai Nishimatsu Construction Co., Ltd.	1962年	1962年に日系建設準大手の西松建設とタイ企業とのジョイントベンチャーにより設立。設立当初は高速道路の建設を主に行っていたが、現在では工場のデザイン・建設の案件が多くなっている。アルミニウム製造メーカーUACJの工場や、半導体メーカーのロームの新LSI工場、ホンダの自動車工場などを手掛けた。他にも複数のコンドミニウムの建設実績もある。
Thai Takenaka International Ltd.	1964年	日本の建設大手、竹中工務店のタイ拠点。1964年に竹中工務店の駐在員事務所としてバンコクに設立され、1974年からタイ人オーナーとのジョイントベンチャーとして現在の体制となっている。工場やオフィスビルのプロジェクトを多く手掛けてきた。
Thai Obayashi Corporation Ltd.	1964年	日本の建設大手、大林組のタイ拠点。1964年に大林組の駐在員事務所としてバンコクに設立され、日本大使館や、シーロム地区

		のタニヤビルの建設を行った。1974年からタイ人オーナーとのジョイントベンチャーとして現在の体制となっている。日系顧客だけでなく、タイ王室やタイローカル顧客の案件も多く手掛ける。
--	--	---

外資ゼネコン企業

企業	設立年	業務内容
SIEMENS	1995年	ドイツ系の建設会社。情報通信、交通、防衛、生産設備、家電製品などの製造、システムソリューション事業を手掛ける。現在、360人の従業員が在籍し、タイの長期経済開発計画であるタイランド 4.0 の推進をサポートしている。タイの高架鉄道 BTS の開発、地下鉄 MRT の開発、東部コラートの東南アジア最大の陸上風力発電所の建設に携わってきた。2017年には日系商社の丸紅とともにバンコクの火力発電所の改修工事プロジェクトを受注した。
Bilfinger (Thai) Construction Co., Ltd.	1988年	ドイツ系の建設会社。クライアントからの信頼も厚く、現在は70%以上のリピート率を達成している。設立当初より高層ビルや工場、物流倉庫、地盤改良、リノベーション工事、構造メンテナンスなど幅広い案件を取り扱ってきたが、1997年からは工業用の案件に重点を置いている。国際的なクライアントに対し、化学、製造、石油・ガス、物流施設、美容製品、食品・飲料など様々な分野の工場の建設を行っている。
China State Construction Engineering Co., Ltd.	1983年	中国系の建設会社。プロジェクトとして、東部ラヨン県での中国系メーカーTiangong Precision Tools と Great Star Industrial の工場の建設を手掛けている。

大阪産業局 タイビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク(タイ: NC BIZ CENTER (THAILAND) CO., LTD.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

タイ事務所：142 Two Pacific Place Unit 1101 11F, Sukhumvit Road,

Khlongtoei, Khlongtoei, Bangkok 10110 THAILAND